

【小施策評価(平成29年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

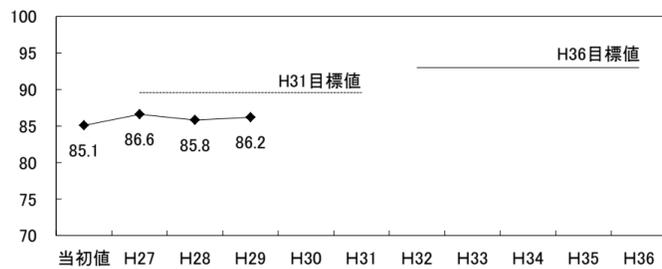
基本目標	1	人がいきいきと暮らすまちづくり	小施策 主管課等	建築住宅課	
施策	6	生活困窮者への支援	評価 責任者	高橋 慎一	内線 3820
小施策	6-2	安定した生活の確保	評価 シート 作成者	下田 眞備	内線 3821

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
著しく所得の低い世帯など、居住の安定確保が必要な世帯に市営住宅を提供するとともに、適正な管理や建替えなどを行い、居住環境の向上を図る必要がある。		市営住宅の入居者が健康的で文化的な生活を維持できるように、市営住宅の建替えやリフォームなど適正な維持管理を行う。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(対象をどのようにしたいのか)
市民		日常生活自立・社会生活自立・経済的自立が促進される。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成29年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標① 市営住宅における入居率	単 位	目指す方向	成 果 点	⇒	成 果 の 要 因 分 析
当初値 (H25) 85.1	%	↗	・市営住宅の建替えやリフォームの実施により、良質な住宅に改善された。		・公営住宅ストック改善事業により、計画的な既存住戸のリフォームを行った。 ・公営住宅整備事業(青山二・三丁目アパート建替え事業)に基づき、古い住戸を解体し、新しい住戸を建設した。
H31目標値 89.6			・市営住宅の入居率が上昇しておらず、ほぼ横ばいである。		・既存市営住宅の建替え事業の実施に伴い、老朽化した既存市営住宅の解体のため募集を行わない空住戸等が残存していることによる。
H36目標値 93.0			・計画的な建替えや修繕等を実施するための予算確保(国庫補助等含む)ができていない。		・既存市営住宅の空室修繕の予算措置や復興需要による工事費の高騰等による。
			・国庫補助等の財源不足から、実施できなかった改修工事があった。		・国庫補助等の予算措置や復興需要による工事費の高騰等による。
実績値の推移			問題点		
			問題の要因分析		



今後の方向性(平成30年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…30年度着手済または着手予定 ☆…31年度以降の着手を検討
<p>★ 市営住宅の建替えや修繕等に必要となる事業費の縮減を図る。</p> <p>☆1 空室の修繕数を増やし空室を減らすことにより、入居率を上昇させる。</p>	